認定ファンドレイザー制度始まる！

2月4日（土）、5日（日）日本ファンドレイジング協会主催の「ファンドレイジング・日本２０１２」大会が開催された。今年度より、ファンドレイジングに携わる人物のスキルや倫理観を確認し、認定していく制度として、「認定ファンドレイザー」制度がスタートする。6月には初級ファンドレイザー、11月には認定ファンドレイザーの最初の資格試験が行われる予定だ。ＮＰＯなどを運営していく上で、必要な資金調達。資金運用を改めて見直すよい機会となることを期待する。

うつくしまコラボネットワーク会議

2月10日、福島県男女共生センターにおいて「うつくしまコラボネットワーク会議」が行われた。（福島県社会福祉協議会とＮＰＯ法人　うつくしまＮＰＯネットワークの主催）この会議には、福島県内の市民セクターの職員、各地域の社会福祉協議会職員などが参加し、被災者支援の現状と今後について話し合った。互いの持つ情報の交換の中で、協働でおこなうことの大切さ、難しさを痛感するなどの意見が多くだされた。今後、ＮＰＯや市民活動団体との連携がますます必要となっていくことが予想される中で、ニーズの変動、情報の共有化がこれまで以上に求められるであろう。

ふくサポ探検隊～会議室の窓からレポート２～

1月講座報告

1月14日（土）星野珙二氏（ふくしまＮＰＯネットワークセンター）をコーディネーターに、夏井芳徳氏（いわき地域学会副代表・いわき明星大学非常勤講師）、大村一夫氏（豊かな地方を築く円卓会議）をパネリストにむかえ、第２回　オープンセミナー（講演会）「伝承と地域の絆～完結編～」が行われた。地域に残る伝承をもとに、地質学的見解からその真相を考えるセミナーで、会場も一体となり、伝承の大切さと、面白さを学んだ。

（上写真）
左から星野氏、夏井氏、大村氏

会議室の窓からレポート！
子どもを放射能から守る福島ネットワークは？

2月11日（土）～12（日）まで、福島市で「放射能からいのちを守る全国サミット」が開かれた。12日はふくサポも会場となり、中部・近畿・中国四国・九州・沖縄の団体が行う被災者支援などの相談会会場となり、会場は全国お国めぐりのような楽しく、賑やかな相談会となっていた。

（下写真）
相談会の様子

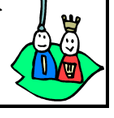
交流広場展示情報

1月29日（日）より、子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク主催の「被爆を最小限にする食事」パネル展が行われております。４月には「桜の花の写真展」を開催する予定です。是非、美しい桜の写真を楽しんでください！！

編集後記

3月、桃の節句は古くは遣唐使の時代に中国から渡ってきたものだそうです。この風習も様々。一般的には男雛が右に、女雛は左に並べていますが、どうもこの並べ方も違ったものがあるようです。皆さんは誰かと2人で並ぶとき、左右どちらに並びますか？並ぶ方向によって、深層心理もわかるそうです。好んで利き手の反対側にくる人は（利き手を自由にする）支配しようとする意識が強いとか、また、逆側にたつ人は相手に依存したがるとか・・・。では、市民活動にむく人はどちらに・・・？いえいえ、色々な人が集まって力を合わせるからこその市民活動！それぞれでしょう！！この人どんな人？そう思った時にためしてみてください？！

内山、桜井



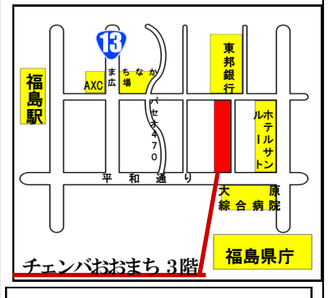
ふくサポ通信

2012年2･3月号
発行日：２０１２年2月29日
編集：特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター
発行：**福島市市民活動サポートセンター**
〒960-8041
福島市大町4-15
チェンバおおまち　3階
TEL：024-526-4533
FAX：024-526-4560
URL：http://www.f-ssc.jp
E-mail:f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間
午前１０時～午後９時３０分
■休館日　　毎週火曜日

ふくサポとは・・・
･市民活動やボランティアの情報を提供しています。
･市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。
･登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。
なお、ふくサポの運営は福島市から委託を受けたNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが行っています。

ふくサポの連絡先はこちらから→



◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、車でお越しの節は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

もくじ

○コラム「復興･支援に向けた民間公益活動」
○ふくしま市民活動フォーラム2012報告
○イベント現場からレポート／シャローム　他
○助成金･イベント情報
○認定ファンドレイザー制度始まる
○うつくしまコラボ夢会議報告
○今月の図書紹介
○平成23年度　講座報告
○ふくサポ探検隊
～にゃんこ隊長、会議室の窓からレポート2～

コラム

「復興・支援に向けた民間公益活動」

（ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議
情報センター事務局長　／早川哲郎）

2月4日に開催されたふくしま市民活動フォーラム2012は、これまで被災者支援や復興に向けた提案の研究を行ってきたNPO、市民活動団体の連携組織ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議が、これからの地域復興のために市民活動がより広くより強く連携することを目指して開催しました。

福島市市民活動サポートセンターとタイアップして、ふくサポが主催するパネルディスカッション「行政と協働で行う災害復興計画」と分野ディスカッションを組み合わせた、連携イベントとしてプログラム構成されました。

前半の「行政と協働で行う災害復興計画」では、私もパネリストとして参加し、被災者支援や活動連携の実情や課題についてお話しする機会を得ることができました。

被災者支援や地域復興に向けて、現在行政（官）、ＮＰＯなど（民）がそれぞれが活動していますが、官は資金と人材では多くの資源を有していますが、事業の実行に時間を要することや平等、均一な行政サービス（支援を含め）を提供しなければならないことから、必要な支援がすぐに実現しない弱点があります。民側は、資金、人材は官にはるかに及びませんが、行動の素早さ、細かなニーズに対応できる面では、官には到底できない柔軟性があります。特定非営利活動促進法制定のきっかけとなったのも、阪神・淡路大震災でのボランティア活動など民間の組織的な支援活動の成果でした。

このように、官には官にしかできない手法や逆にしばりがあり、民には民が得意とするやり方があります。これからの地域の復興を考えるとき、あれもこれも行政がやれば良いのだという考え方は、復興を遅らせたり、住民が望む復興の姿にならない可能性が強いと私は考えます。

資金の動きも含め、民間の公益活動が発展しているアメリカでは、まちづくりの主体は市民参加によるＮＰＯが担い、行政はＮＰＯが策定する計画方針に沿って施策を実行するといったかたちで、民意が反映されたまちづくりが行われ成功した事例がいくつもあります。

行政が主体となったまちづくりには、住民は自らの要望実現を強く求め調整がつきにくい場面があります。そのためにまちづくり計画が実現しないこともあります。住民が計画段階から参加し、まちづくりのマネジメントにも参画することで、自分たちの要望だけが実現しても地域全体の利益にならないことや他の住民の要望との調整が必要であることに直面し、折り合いをつけながら計画を進めることがやりやすくなります。

現状では、ＮＰＯが地域復興の中心になることは無理かもしれませんが、ＮＰＯの存在が不可欠であることは間違いありません。ＮＰＯが地域復興の大きな力となって、これからのまちづくりの主役となるよう、組織力を高めていかなければなりません。

ふくしま市民活動フォーラム

（下写真）市民活動フォーラム入り口に貼られたポスター

2月4日（土）ＡＯＺにおいて「ふくしま市民活動フォーラム２０１２」が開かれました。参加された皆様、ありがとうございました。サポわんがレポートしちゃいま～す。

サポワン

「行政と協働で行う災害復興計画」

第1部はふくサポ主催のＮＰＯマネジメント講座「行政と協働で行う災害復興計画」のパネルディスカッションが行われた。会場は約200名の参加者で満席となった。

福島大学教授でＮＰＯ法人ふくしまＮＰＯネットワークセンター常務理事牧田実氏によるコーディネートで、福島市政策推進部参事兼企画経営課長川村栄司氏、プロジェクト会議（ふくふくプロジェクト）事務局長早川哲郎氏、ＮＰＯ法人いいざかサポーターズクラブ理事長藤原純氏がパネリストとして様々な事例の紹介や意見をのべた。パネルディスカッションの中で、行政との協働の難しさやそれぞれの役割の重要性、ネットワークを活かした活動の大切さなどが語られ、それぞれが復興について考える時間となった。参加者は復興への思いをはせた。

（下写真）1部の講座の様子

「フォーラム宣言採択」

ふくしまＮＰＯ・市民活動団体連携復興プロジェクト会議（ふくふくプロジェクト）議長の星野琄二氏からフォーラム宣言案の説明があった後、ＮＰＯ法人ふくしまＮＰＯネットワークセンター常務理事の齋藤美佐氏がフォーラム宣言案を読み上げ、場内の熱気の中で採択された。

「ふくしま復興ディスカッション　7つの分科会」

第２部の分科会は「再生可能エネルギー　ふくしまモデル」（ふくしま飛行協会企画・写真①）、「自分らしい明日のために」（ふくしま成年後見センター企画・写真②）、「震災後の福祉活動と課題」（シャローム企画・写真③）、「手軽に出来る、環境汚染対策」（エコクラブだて企画・写真④）、「原発事故から地域の生活・文化を守る」（相双歴史文化保存会企画・写真⑤）、「子ども支援の連携について」（ビーンズふくしま企画・写真⑥）、「マネジメント・トークショー」（ふくしまＮＰＯネットワークセンター企画・写真⑦）の７つのテーマで話し合われ、それぞれが熱い意見を交換した。

写真①

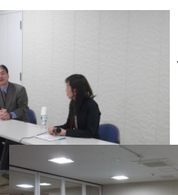
写真②

写真③

写真④

写真⑤

写真⑥



写真⑦

イベント現場からレポート

今回も楽しいイベントを、元気にレポートしまーす！！

桜井スタッフ

映画「あしたが消える～どうして原発？～」上映＆トーク

1月28日（土）、千葉茂樹氏（映画監督・脚本家・日本映画学校校長）をゲストにむかえ、原発をテーマとした映画の上映とトークショーが福島フォーラムで開かれた。（ＮＰＯ法人シャローム主催）チェルノブイリの原発事故を契機に、原発について考え、実情をみつめたドキュメンタリー映画で、今から22年前に作られた映画だ。トークショーには、吉野裕之氏（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク）や齋藤喜章氏（ＮＰＯ法人ふくしま飛行協会理事長）も参加し、千葉監督と原発のかかえる問題や福島の現状やこれからについて話し合った。
会場は満員の人でうめつくされ、このテーマに関する関心の高さがうかがえた。

（上写真）右から千葉茂樹氏、齋藤喜章氏、吉野裕之氏

ひまわり感謝祭

12月18日（日）ＡＯＺにおいて、共に生きる仲間たちのコンサート「ひまわり感謝祭」が開かれた。（シャローム主催）このコンサートは今年で15回目をむかえた。
「障害をもつ人達もそうでない人達も同じ場所に一緒に助け合って生きている。」そんな思いがこのイベントの絆を結んできた。このイベントの舞台では、ハワイアンバンドの演奏やＹＯＳＡＫＯＩ踊りなどが披露され、映画の上映、ひまわりの写真・絵画展、授産製品などの展示即売会コーナー、復興支援等団体紹介コーナーと様々な催し物が行われ、会場は多くの人で賑わっていた。

（上写真）YOSAKOIステージ

小出裕章氏　講演会

1月21日（土）、こむこむにおいて京都大学原子炉実験所助教授の小出裕章氏の講演会が開かれた。この講演会は、原発に賛成でも反対でもない市民主体の講演会実行委員会が主催し、共催のＮＰＯ法人うつくしまブランチが運営を行うかたちで開催された。第１部は、小学生以上を対象とし「子どもたちに伝えたい原発のはなし」と題し、原発事故が及ぼす影響などについて分かりやすく説明した。第２部では、一般を対象とし「知っておかねばならない原発のはなし」と題し、放射線の影響を受けやすい子どもたちを守らなければならないと、考えられる対策をいくつか提示した。

（右写真）寄せられた多くの質問に真摯に答える小出氏

ルワンダ写真展　イン　ふくしま

12月22日（木）～26日（月）まで、コラッセふくしまにおいて、「ルワンダ写真展・イン　ふくしま」が開催された。（ＮＰＯ法人ルワンダの教育を考える会主催）ルワンダに学校を建設して、11年がたった。その感謝の気持ちをこめて、開催されたこの写真展。会場に足を踏み入れると、本を手に持つ子ども達の笑顔が出むかえてくれた。その笑顔の中に、心の豊かさを感じる事ができる。開催期間中、クリスマスコンサートやＪＩＣＡボランティアセミナーなどが行われ、会場ではルワンダコーヒーやルワンダの物産を楽しむこともできた。

（上写真）ルワンダの物産販の様子

福島の幸せを考えよう　福島ふっこうシンポジウム

2月18日(土)、こむこむにおいて、福島ふっこうシンポジウムが開かれた。（福島れんげの会主催）「福島復興に欠かせない幸福感情」のタイトルで福島大学行政政策学類　准教授　丹波史紀先生が講演した後、「福島ふっこう　私が伝えたいおもい」をテーマにジャーナリストの藍原寛子氏や福島医科大学医師の長谷川有史氏　他４名のシンポジストがそれぞれのおもいや現状、活動内容を伝え、福島とともにどう進むべきかを考えた。

助成金 活動支援 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

2012年度（第10回）ドコモ市民活動団体への助成

〈対象〉「子どもを守る」をテーマに子どもたちの健やかな育ちを応援する次のような活動　1 不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対しての精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動　2 児童虐待やDV、性暴力などの被害児童・生徒を保護・支援する活動　3 非行や地域犯罪などから子どもを守るための支援活動　4 子どもの居場所づくり 5 軽度発達障がいを持つ児童の支援活動　6 その他活動テーマに相応しい支援活動
〈助成金額〉助成総額2500万円（上限）予定
1団体あたり標準50万円、最高200万円
〈応募締切〉平成24年3月30日（金）
〈お問合せ先〉NPO法人　モバイル・コミュニケーション・ファンド
電話　03-3509-7651(平日10時～18時　土日祝除く)

東日本大震災復興支援“がんばろう！NPO” PC1000寄贈プログラム

〈対象〉東日本大震災で被災した非営利団体、または、復旧復興を支援する非営利団体
〈寄贈内容〉2005年以降発売されたリユースPC、Windows XP、Office 2007 Personal、Virus Buster2012（1年分）
〈応募締切〉平成24年3月31日（土）
〈お問合せ先〉
認定NPO法人イーパーツ 東日本大震災支援係
電話　03－5481－7369（平日13時～18時）

TaKaRaハーモニストファンド 平成24年度助成事業

〈対象〉自然環境を守り、育てる活動または研究を実践する個人および団体
〈助成金額〉総額500万円程度　件数は10件程度
〈応募締切〉平成24年3月31日（土）
〈お問合せ先〉
みずほ信託銀行株式会社 京都支店 営業第2課
公益信託TaKaRaハーモニストファンド事務局
担当：明上、赤池
電話　075-211-6231

第5回ティファニー財団賞 －日本の伝統文化と現代社会－

〈対象〉①地域の伝統文化を現代社会の営みにマッチさせ、地域文化を核として広く市民を巻き込んだ活動②地域社会に昔からあった活動を再活性化することにより、地域の誇りを取り戻す事業③伝統文化をテーマに国内外と交流することで開かれた地域づくり　等を行う組織
〈賞金〉大賞、振興賞、それぞれ賞金200万円とトロフィー
〈応募締切〉平成24年4月2日（月）
〈お問合せ先〉
(公財)日本国際交流センター内 ティファニー財団賞事務局
担当：毛受（めんじゅ）、長谷川　電話　03－3446－7781

「LUSHチャリティバンク」助成 東日本大震災復興支援

〈対象〉被災地の復興支援活動。被災された方たちへの支援活動。被災者支援および被災地復興支援活動の実績がある、WEBページで活動が閲覧できる、電子メールでの連絡が可能な団体。
〈助成金額〉10万円～200万円予定
〈応募締切〉毎月月末
〈お問合せ先〉
株式会社ラッシュジャパン　チャリティポット係
電話　03－5781－9567(月曜～金曜 11時～17時)

お知らせ・イベント 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

詩の街ふくしま ことばのミュージアム2012

吉永小百合 原爆詩朗読会

第一部　新しい一歩のために スピーチ 和合　亮一
第二部　原爆詩朗読　ほか

〈日時〉4月13日（金）　18:30 開場　19:00 開演
〈場所〉福島市公会堂
〈入場料〉前売券 800円（当日券1,000円）
〈お問合せ先〉NPO法人 うつくしまブランチ
TEL 024－536－3103

成年後見制度　説明会 後見に関する個別相談会 ～考えてみませんか？安心できる今日・明日～

〈場所〉福島市中央学習センター
〈日時〉毎月第2木曜日
（3月8日・4月12日・5月10日）
10:00～11:30 / 18:30～20:00
※夜の部は偶数月のみの開催
〈参加費〉無料（資料代300円）
〈お問合せ先〉
NPO法人 市民後見サポートの会
TEL/FAX　024-522-1426

劇団スイセイ・ミュージカル 楽　園

－あなたがいれば、ただそれだけで楽園－

〈内容〉昔、ハワイで起こった悲しい出来事…
1941年、日系二世の星司とハワイアンの女性レイラーニ。人種の壁を越えて惹かれあう二人に、戦争の暗い影が忍び寄っていた…
〈場所〉福島市公会堂
〈日時〉3月17日（土）18:30～
18日（日）13:30～
〈費用〉入会金　1，000円
月会費　一般　2，400円
大学生　1，500円
高校生以下　500円
〈お問合せ先〉福島演劇鑑賞会
TEL　024－523－3836

第33回こども緊急サポートネットワーク スタッフ会員養成研修会

子育てを支援していく志のある方（有償ボランティア）を募集します
〈日時〉3月17日、18日、24日、25日
9:00～17:00
〈場所〉保原中央公民館
〈受講料〉無料
（但しテキスト・資料代3,000円）
〈定員〉先着40名（託児あり、要予約）
〈お問合せ先〉
こども緊急サポートネットワークふくしま
事務局担当　佐藤・河野
TEL 024－592－2270

福島市子ども劇場連絡会高学年部第124回例会 神田香織の立体講談 はだしのゲン

9歳の少年ゲンが見た広島。戦争と原爆の真実を演じる感動の舞台。
初演から20年を超え、全国で4万人が感動した神田香織の代表作。

〈日時〉3月21日（水）午後7:00～8:20
〈場所〉福島テルサ
〈料金〉会員制 入会金200円
会費（月額）1000円
※小学4年生以上入場可
〈お問合せ先〉福島市子ども劇場連絡会
電話　024－558－0066

「市民後見人の意義と役割」

筑波大学法科大学院教授　上山泰先生をむかえての講演会。市民後見人を支える自治体と専門後見人団体がしっかりスクラムを組み、「市民後見人の養成と支援体制」を作り上げていく必要があります。
実現するために何が必要か考えたい。
〈日時〉4月7日（土）13:30～16:00
※10:00～11:30　個別相談会もあります。
〈場所〉こむこむ　1階　わいわいホール
〈受講料〉無料
〈お問合せ先〉
NPO法人　市民後見サポートの会
TEL/FAX　024-522-1426

交流広場から今月の図書紹介 「知識ゼロからの人脈術」弘兼憲史著 幻冬舎

「課長　島耕作」などの作家で知られる弘兼憲史氏が自身のサラリーマン生活をもとに解説したビジネス書。企業、NPO、地域でのおつきあい、何をする上でも人脈があって損をすることはない！漫画も、取り入れながら、とっておきの人脈術を楽しく説明。これを読めば、明日から人脈術の達人！？になれる？かどうかためしてみる価値あり！です。